



# 米沢有為会 仙台支部だより

第 31 号

令和6年6月11日

発行者

(公社)米沢有為会仙台支部

支部長 鈴木 修治

仙台市青葉区角五郎2-6-21

TEL 022-222-4790

## 新入寮生（後列中央の3名）を迎えて 5年ぶり寮生全員集合の歓迎会 2024.4.20

### 有為会の近況

#### ・仙台興譲館寮の状況報告

コロナ禍が始まってから5年目、その初年度は15年働いてこられた寮母さんが退職し暫くは寮生自らによる不自由な自炊生活が行なわれました。寮生としては食事がないことに加えて、心の支えとなってくださった寮母さんが居なくなりました。半年後、ようやくと言っていました。半年後、ようやく新しい寮母の桶川さんを迎えました。寮生は、寮母さんに協力しながら常日頃から感謝の気持ちを忘れずに過ごしたいと言っています。

#### ・寮生募集

残念な事に、例年行われた置賜の高校における仙台寮の説明会はコロナ禍のために取りやめになりましたが、2年前館長制作の仙台興譲館寮の案内動画が「YouTube」にアップされ、サイトには約700名の訪問者がありました。ただ、動画を見た方から、全体的に暗く、2階の手すりに寝具が掛けあつたりして汚らしい、食事も少しみずぼらしいなどのマイナスの意見も寄せられており、撮り直すことになりました。映像会社により新たに

撮り直された動画が「YouTube」にアップされ、内容は寮生とのインタビューをもとにした寮生活の紹介・感想が中心となっています。また昨年12月に発行された「米沢有為会仙台支部だより30号」を山形県南部の高校に数部ずつ送り、教室掲示をお願いしました。

令和6年度は10人の新入寮生募集に対して応募者が3名でした。現在3名の新入寮生を加え定員15名に対して計7名が在寮しています。令和5年春は2名、令和4年春は2名、令和2年春は1名の新入寮生が入りました。7名の出身高校別では、米沢興譲館高校(2)、九里学園高校(1)、長井高校(4)で、出身自治体別では米沢市(2)、白鷹町(1)、川西町(1)、長井市(3)という構成です。

#### ・近況

本年の応募状況をみると厳しい状況には変わりありません。昨年4月、隣にできた5階建て30室、部屋代月6万5千円の学生マンションはすぐに満室になったようで、時代の流れで学生生活のスタイルが変わってきた可能性も強いと感じさせられました。ですが、経済的に厳しい学生も必ずいるので学生寮の存在価値はまだあると思われれます。

大学の授業が昨年4月にオンライン

から教室での授業に戻るなど、学生の生活も大きく変わって来ています。コロナ禍が始まって以来ずっと寮生に感染者はありませんでしたが、昨年度は 2 名の感染者が出ました。

### ・仙台支部の活動

昨年は有為会仙台支部主催の支部総会、花火大会鑑賞会、秋の芋煮会が開催され、会員同士、会員と寮生との交流がやっとできたところです。今年も寮生会主催の新人寮生の歓迎会を 4 月 20 日に 5 年ぶりに実施しました。

(仙台支部長 鈴木 修治)

## 新人寮生の感想文

仙台リゾート&スポーツ専門学校

伊藤 功太

地元である山形県を離れ、仙台に移り早くも 2 カ月が過ぎました。当初は新たな学生生活への大きな期待の中に慣れない土地での暮らしに対する一抹の不安がありました。しかし、2 カ月が過ぎ当初抱いていた不安は嘘のように消え、自分の将来に向け日々勉強に励んでいます。様々な個性を持った学生が集まり、同じ目標に向かい、互いに高め合える環境で学べていることに感謝

しています。

私が入学した「仙台リゾート&スポーツ専門学校」はスポーツ現場における即戦力を養成する学校です。企業代表を務める方であったり、競技現場で活躍されている優れた実績を持つ講師の方々から指導していただき多くの知識・技術を日々得ることができています。

私が取得を目指す資格である「アスレチックトレーナー」ですが、まずアスレチックトレーナーという言葉に聞き覚えのない方が多いと思います。近年、スポーツトレーナーに関する多種多様な資格が存在する中、アスレチックトレーナーは医学的な知識や優れた技術が求められる資格です。選手のパフォーマンスの回復・向上を支援し、選手と指導者や指導者と医師といった人と人とのパイプ役も担います。スポーツトレーナーに関する多くの資格がある中でも、アスレチックトレーナーは国内最高峰の資格と言われています。そのため難易度も高く合格率は 20% 以下 30% と狭き門であると言えます。実際に学んでいる内容としては、機能解剖学や運動生理学といった人体に関する学問の他、栄養学やスポーツ医学、救急処置やコーチング論と多岐に渡ります。また、選手のパフォーマンスを引き出すためのトレーニングやスト

レッチなども学びます。学ぶ内容は多岐にわたりますが、苦ではありません。前々からスポーツトレーナーと呼ばれる職種に興味があったため新しい知識・技術を取得することに楽しさを感じています。そして、1 年時の後期から実習も本格的に始まります。現場で活躍するうえで、知識だけを持つていても選手を支えることはできません。正しい知識を有し、それを実践する能力を持つことが必要不可欠であると考えます。日々の学びを生かせる機会をいただけることに感謝し、見識を深めていけたらと考えています。

私はこの学びを通して、将来的には地元のスポーツへの貢献に強い意識を持つていきます。

年々、スポーツの需要は高まっており、この先の人生を健康的に生きていくためには運動が重要視されています。メインは地元のスポーツチームのトレーナーや母校の部活動のトレーナーとなつて貢献したいと考えていますが、様々な世代の方と関り地元を支えていけたらと考えています。自分一人の力で山形を変えていけるとは思っていません。自分を形作ってくれた地元に恩返しの意味も含め、少しでもより良い方向に支えていければと考えています。

この将来の目標のためには、日々の学びから得る知識・技術を高いレベル

へと押し上げることが必要です。総合的な知識・技術を取得し、広い視野で対応できるトレーナーを目指します。

そして、私が仙台で充実した学生生活を送れているのは仙台興譲館寮のサポートのおかげだと感じています。館長の滝口さんや寮母の桶川さんをはじめとする多くの方々の力添えに心からお礼申し上げます。

仙台リゾート&スポーツ専門学校での学びや経験は将来の自分に直結する非常に重要なものです。素晴らしい環境で学べていることに感謝し、夢のため精進して参ります。

東北大学法学部 高橋 未来

私が東北大学法学部に入学し、約二か月がたちました。十八年間住み慣れた親しんだ長井の地から離れての仙台での生活はまだ慣れないことも多いですが、優しい寮生の皆さんや寮母さんがサポートのおかげで、大学での勉強に励むことができています。

東北大学で学ぶ中で、私が特に強く感じていることは、高校までの勉強と、大学での勉強の違いです。高校までの勉強は、先生に一方的に教えられたことをどれだけ正確に覚え、再現できるかといういうなれば受動的な学びでした。しかし、大学に入ってから、先生の話

を黙って聞いているだけでは評価してもらえず、自分自身の意見をしっかりと持って、能動的に学ぶことが重要となります。つい最近まで受験生であった私は、大学に入った当初、この「学びのギャップ」に非常に苦しめられました。しかし、最近はそのような大学での学びのスタイルに徐々に慣れ始め、授業や法学部の自主ゼミなどの活動でも自分の頭で考え、自分の意見を発表することが徐々にできるようになってきました。社会に出たときに求められるのは、言われたことだけをこなす人間ではなく、自分でやるべきことを考え、行動に移す主体性のある人間だと私は考えているので、この勢いで大学での様々な活動を通してますます主体性を高めていきたいと思えます。また、授業の専門性という観点でも、高校までの学びと大学の学びとは大きく異なっていることにも非常に驚きました。私が所属する法学部では、一年生から教養科目と並行して法律の専門科目についての授業を数多く受講することができ、私も民法や刑法の講義を受講しております。法律の勉強は難解な部分が多く、理解に苦戦することも少なくはないですが、もともと法律や政治の分野に興味があったこともあり、非常に有意義な時間であると感じております。

また、私が東北大学で勉学に励むことができてきているのは、本文の初めにも書きました通り、仙台興譲館寮の存在と私をサポートしてくださる寮母さんと寮生の皆さんのおかげです。特に、仙台興譲館寮の寮費の安さには非常に助かっております。私の両親は病気のために働くことができず、私は生活費と学費のすべてを奨学金で賄う必要があります、生活費を少しでも削らなければなりません。そのため、食費や光熱費等を含めても非常に安い寮費で住まわせていただいていることには、大変感謝しております。さらに、平日には温かい手料理を寮母さんが作ってくださり、自分で家事をする必要がほとんどなく、余った時間を勉強に充てられるのも非常にありがたい限りです。

私は、大学での四年間の学習を終えた後は、大学で得た知識を生かすことができる職業に就きたいと考えております。そのような職業の中でも、現在私が特に関心を抱いている職業は、国家公務員の総合職です。現在日本は、世界的に見れば先進国とはいえ、国の内部の実情を見てみると様々な問題を抱えています。例を挙げると、貧富の格差の拡大、少子高齢化、地方の衰退など多岐に及びません。さらにこうした問題は、小さな組織や地方公共団体がそれぞれにも取り組むだけでは解決するこ

とが難しく、国を挙げて解決に取り組む必要があります。そのため、私はこうした問題の解決に、政策の立案とい最も根本的な部分で取り組むことができる国家公務員の総合職になり、日本の社会全体に貢献したいと考えております。東北大学法学部では、法律だけではなく、政治学についても学ぶことができ、東北大学法学部は自分の将来の夢をかなえるための最善の環境でした。したがって、これからも社会に貢献できる人間となることを目指し、与えられた環境をフルに活用して日々邁進してまいります。

最後に、改めて私を支えてくださっている皆様にお礼を申し上げ、私の入学・入寮のあいさつとさせていただきます。

#### 東北大学工学部航空工学科 楊 剛

この原稿を書いている今は六月八日、この寮に越してからもう二か月ほどとなり、いい加減新生活の勝手も分かってくるころです。

四月から入学した東北大学の講義棟もすっかり見慣れてしまい、最初登校したときに感じた感慨もどこへやらといった感じですが、こうして振り返ってみると、やはりここに入ってからよかつたなという気持ちになります。共に学

ぶ学生や普段の講義の質が良いことはもはや書くまでもないことですが、東北大学の良さはそこにとどまりません。キャンパスの環境がいいことや、教師の教育に対する積極性が高いことにも感銘を受けましたが、それ以上に驚いたのはその学生の多様さです。総合大学であるのでいろんな専攻を持つ学生がいることは当然のことですが、東北大学ではそこに加えて国際性が豊かなのです。キャンパスに足を運べば、一人も外国籍の人とすれ違わないことはまずあり得ないと断言できるでしょう。

英米仏独伊といった欧米からの留学生は勿論、中韓やインドネシアのようなアジア圏、教育で有名なフィンランドに、珍しいところではボツワナ出身の留学生なんかもいました。そしてこのような環境を学生が活かせるように、大学側も場を設けています。例えば授業の場面においては、国際共修と分類される授業の一群があります。私はここに属する一科目を履修し、大学に代される高等教育機関の歴史や役割を様々な学生とともに受けていますが、彼らが授業中に話す内容はどれも興味深く、この大学に来た甲斐があったと感じさせてくれました。英語がそこま得意ではないためにたまに何を言っているのか分からなくなる時もありますが、これも学習への原動力となります。

会員異動

す。また、授業は基本的に先生が各学生に質問してほかの学生はその回答を聴くかたちで進んでいくので、他学生と交流する機会はありませんが、授業後には一緒にご飯を食べるようなこともあります。私がついていったグループにも二人外国出身の人がおり、無事知り合いになりました。北欧の人は寡黙というのは本当でした。

そろそろこの話題で書くのも限界なので、何か別の話題でかさ増しします。履修登録をした時から薄々気づいてはいましたが、思ったより自由に使える時間が少ないです。受験生の頃から比べれば確かに授業などに拘束されない時間は増えましたが、正直課題のレポート作成で相殺されている気もありません。私が所属している工学部は実験のある科目が必修で入っているのですが、この科目で出るレポートは担当教師が言うには一つ10時間ほどで出来上がるようです。嘘です。もしもともなものを作ろうとしたら、現実にもっと時間がかかります。というか実験に限らず、レポートは文献を調べるのにえらい時間がかかるのです。レポートを書き上げるまでにかける時間のうち7,8割は文献調査です。数を重ねれば慣れてくるのでしょうか、それにはもう少しかかりそうです。気が重くなる話です。

入会

高橋 久美子(賛助会員)

楊 宏哲(賛助会員)

退会

小形 泰弘(賛助会員)

山口 武史(賛助会員)

仙台支部年間行事予定

※仙台興讓館行事

※4月13日(土) 大掃除・寮生総会

※4月

※新入寮生歓迎会(寮生会主催)(会場: 仙台興讓館) 4月20日(土)

令和6年度仙台支部通常総会・講演会

6月

6月29日(土)

会場:スマイルホテル仙台南分町

講演会講師:東北大学理学部助教

今井良宗氏(1997年入寮)

演題 「超電導の世界とその応用

技術の展望」(仮題)

※6~7月前期リクレーション行事

令和6年度米沢有為会定時総会

6月22日(土)

会場:米沢市「伝国の杜」

8月以降の支部行事

夏の交流会(七夕前夜祭・広瀬川原花火鑑賞会) 8月5日(月)

秋の交流会(芋煮会)

※9月29日(日) 大掃除・寮生総会

12月

※忘年会(寮生会主催)(会場:仙台興讓館)

1月

※新年会兼卒業生歓送コンパ(寮生会主催)(会場:仙台興讓館)

※1月~3月 入寮面接回数

仙台興讓館寮生名簿

伊藤 功太 (仙台リゾートスポーツ専門学校1) 【九里学園高R6卒】

川西町出身

高橋 未来 (東北大学法学部1)

【長井高校R6卒】 長井市出身

楊 剛 (東北大学工学部航空工

学科1) 【米沢興讓館高R5卒】

米沢市出身

大橋 陽 (東北大学理学部数学科2

【米沢興讓館高R5卒】 米沢市出身

渡部 勇真 (東北大学経済学部2)

【長井高R5卒】 長井市出身

菅 桜太郎 (東北大学経済学部3)

【長井高R4卒】 白鷹町出身

◎令和6年度前期 寮長

杉山 綾太 (東北大学工学部材料科学総合3) 【長井高R4卒】 小国町出身

【卒業生】

鈴木 優 (東北学院大学経済学部4)

【米沢商業R2卒】 米沢市出身

寮母 桶川 幸江さん

館長 滝口 政彦

編集後記

本年は新入寮生が3名入り、寮生の総人数が7名(定員15名)となり何とか運営ができる状態です。東京興讓館寮は寮生が10名(定員25名)と少なく大変危機的な状況です。これまでは寮母さんの給料・退職金補助というところで有為会本部からお金を振り込んでもらっていたのが、東京への援助が中心となり今年からはなくなりました。これまで月毎にかかる経費によって算出した実質主義的な寮費を取っていたのが、月6万5千円(これまでは約5万円)の定額に変更になった。寮生にとっても1万5千円のアップは非常に厳しいようです。寮生への援助というところで卒業生に呼びかけて是非有為会の会員になってもらうよう手紙を出す予定です。

責任者 滝口政彦